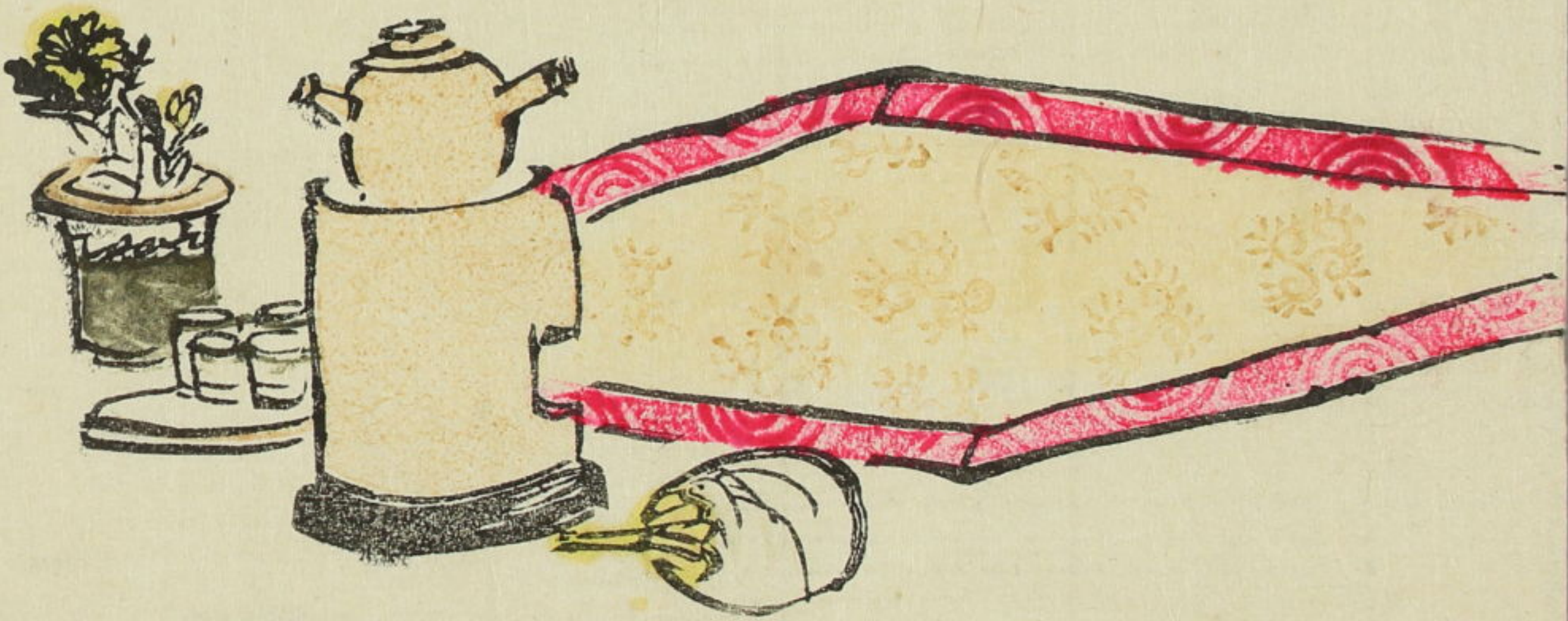




唐筆画



春興行

遠まよも疑をなし初晴 凌冬
 暮盤を仮り喰積成さき 鶯媒
 手を平寸笑ふけ梅乃香るらん 井月
 大の以むらく里如結ひ 波女
 指出しの枝数不月の輝きそ 霞松
 露神汁あるくさの志白し 山好
 突決て今冠の初榮山子 窟子
 昔吐しふるきたいし 羅山
 おこつ事此針と泊漸乃店借て 稻谷
 忍ひの状乃つくとふさあ家 回龍
 命多け八身のたしなみと云習ひ 政喬
 急度坊主は沙汰も有さけり 文堂
 雲氷尋をならぬ月乃さそ 一壽
 細豆飯下よむくく 鷹梅
 一ふり百にまされる落し 翠幹
 川に訓是たる夫も 如翹
 山岨も恙し思まぬりかき未て 晴美
 戸さくぬ姿と抱ひ果たり 竹斐
 投鞠のからまらぬの柳水 鶯媒

